

地域と農業の力を活用し「生きる力」を育む学校運営(平成22年)

北海道有朋高等学校 副校長 山本周男
(元北海道幌加内高等学校教頭)

1 はじめに

(1)設置状況

上川管内北部、旭川市からおよそ 50 km に位置する「そば」の町、幌加内町(人口 1800 人)に設置された町立、昼間定時制、農業科 1 間口(定員 40 名)の高等学校



町職員(常勤) 事務長 1 事務生 1
実習助手 3 (農業・情報・家庭)

養護教諭 1 副舎監 2 寮管理人 1
町職員(臨時) 農場管理 2 講師 1 ALTI 1

(3)沿革

昭和 29 年「北海道幌加内農業高等学校」
(昼間定時制 1 間口)として幌加内町が設置
昭和 63 年「北海道幌加内高等学校」に改称
平成 元年 寄宿舍「渓雪寮」新築
平成 2 年 校舎移転改築落成
平成 14 年 学校設定科目「そば」を導入
平成 14 年 全国定通生活体験発表大会
文部科学大臣賞受賞
平成 19 年 ホクレン夢大賞受賞
平成 21 年 空知管内教育実践表彰受賞
平成 22 年 支庁再編により上川管内に編入

2 地域から見た本校

日本最大の人造湖である朱鞠内ダム工事のため人口が爆発的に増加し、町内の人口が 1 万 2 千人を超えた昭和 30 年代初め、全校生徒数は 180 名を超えていた。昭和 50 年代には 100 名を切り、平成 5 年前後で一時生徒増で 120 名程度になったが、ここ数年間は全校生徒数は 40~50 名となっている。

町民の中には多くの本校卒業生がおり、町の高校として地域住民や同窓生からも温かい支援を受けている。しかし、平成 10 年頃より町内の生徒が減少し他地区からの生徒が増加したことにより寮生活での生徒指導上の問題が増加した。また、同時期に教職員の若年化等で、指導力が弱体化し、町民からは苦情や様々な指摘がなされるようになり、学校の信頼は薄れる時期もあった。

現在は寮生活も改善され「そば」の町幌加内を代表する「そば」授業や行事の展開によって町の活性化を担う存在として期待が高まって来ている。

(2)生徒・教職員(平成22年)

①生徒数

1 年	男子 19	女子 3	計 22 名
2 年	男子 8	女子 6	計 14 名
3 年	男子 5	女子 5	計 10 名
	男子 32	女子 14	計 46 名

※ 4 年生は現在、在籍無し

幌加内町 2 名、旭川地区 21 名、
札幌地区 17 名、その他道内 3 名、
道外 2 名(愛知・大阪)、外国籍 1 名
渓雪寮 寮生 44 名(全校生徒の 96%)

②教職員数 24 名

道職員 校長 1 教頭 1 教諭 9 (期付 1)

3 現状を踏まえた取組

(1) 中学校訪問、学校見学会、説明会、体験入学を通じた不本意入学者の抑制

※地元の中学校は1校、各学年の生徒数は7～8名で今後も大きく変化しない。

- ①中学校訪問：旭川、札幌等40校程度
第1次(管理職+教諭)7月
第2次(管理職+教育長、次長)11月
- ②学校見学会・説明会 8月2日(日)
- ③1日体験入学 9月18日(金)

(2)「農」や「食」に関する体験を通し創造の喜びや成就感から生徒を育てる実習

- ①全校生徒による学校田植え
生徒、教職員ともに汗を流す時と場所を共有
- ②農業体験実習
町内農家26戸で全校生徒が4日間実習
実習後は受け入れ農家でアルバイト有り
- ③「そば」授業と「素人そば打ち段位認定」
(全国麺類文化地域間交流推進協議会主催)
詳細は4特色ある教育課程の(1)に記載

(3)地域住民、小中学校、他校種等との連携・交流事業による心の教育の実践

- ①町内一斉合同清掃
小中高、自治会、婦人会、老人クラブ
- ②「町内花いっぱい運動」
各施設へ本校栽培の花の定植
- ③高等養護学校との「そば打ち交流」
本校生徒が「そば打ち」を指導
- ④学校祭と「新そば祭り」の連続実施
本校店舗で3000食販売(H22)
- ⑤交通安全宣言・交通安全キャンペーン
農場で収穫した作物を国道275号で配布

(4)保護者巻き込み型の学校行事による学校運営基盤の強化

- ①学校農場の収穫祭でPTAとの連携強化
- ②PTA役員会、PTA地区懇談会の内容の充実と交流の促進
- ③PTA戸数減少を補うPTAのOBによる「幌高応援団」の結成

(5)寮生活を通じた社会性の獲得と自主・自律の精神や態度の育成

- ①寮生会役員生徒を中心とした寮生活上の規則の策定
- ②生徒の企画・運営・評価による寮生会行

事や各種運動の企画と実施(携帯マナー向上、いじめ撲滅運動、除雪ボランティア等)

③一斉学習時間の固定化と課題提示による学習習慣の確立及び基礎学力の定着

※現在(H22)、全校生徒の96%が寮生であることから、寮における生活指導、学習指導は本校教育の生命線の一つ。教職員は交替制で宿直や日直に入り、24時間体制で献身的な教育を実践している。

4 特色ある教育課程

平成22年度入学者 教育課程

		標準 単位	1年	2年	3年	4年
国語	国語表現Ⅰ	2			3	
	国語表現Ⅱ	2				2
	国語総合	4	2	2		
地理 歴史	世界史A	2			2	
	日本史A	2	2	2		
公民	現代社会	2			2	
数学	数学Ⅰ	3	2	2		
	数学A	2			3	
理科	理科総合A	2	2			
	生物Ⅰ	3		2	2	
保健 体育	体育	7~8	2	3	3	
	保健	2	1	1		
芸術	書道Ⅰ	2		2		
外国 語	オラル・コミュニケーションⅠ	2			3	
	英語Ⅰ	3	2	2		
家庭	家庭総合	4	4			
農 業	農業科学基礎	3~6	3			
	課題研究	2~6		1	1	4
	総合実習	4~8	3	2	2	12
	農業情報処理	4~6	2	2	2	
	野菜	6~8		2		
	草花	6~8		2		4
	食品製造	4~8		2	2	4
植物バイオテクノロジー	2~6			2	2	
家 庭	そば	4~5	2	1	1	
	発達と保育	2~6		2		
	家庭看護・福祉	2~6			2	4
	フードデザイン	2~8		2		
	調理	4~15			2	
小計			27	26	26	18
総合的な学習の時間			2	2	2	
合計			29	28	28	
特活	ホームルーム		1	1	1	

(1) 学校設定科目「そば」

1年次 2単位

実習：そばの播種、栽培、収穫、そば打ち
座学：そばの歴史・食品としての特性等

2年次 1単位

実習：そば栽培、そば打ち、そば店舗出店

3年次 1単位

実習：そば栽培、そば打ち、経営、講習会
そば打ちの実習では、本校教諭のみならず町内から5～6名の講師を招き、全国麺類文化地域間交流推進協議会（全麺協）の「素人そば打ち段位」資格認定に向けて技術を身に付ける。卒業までに全員が「素人そば打ち段位」初段位以上を取得する。

そば段位認定合格者（上段合格者、下段受験者数）

		H16	H17	H18	H19	H20	H21
初段位	合格	35	21	11	20	15	20
	受験	40	21	11	20	15	20
二段位	合格		16	13	9	12	7
	受験		16	16	9	16	10
三段位	合格			3	3	3	2
	受験			4	5	5	2

※平成18年度の3段位の合格は高校生として全国初

※平成21年度の3段位は一般の方を含めると95名が受験し60名が合格。本校生徒はその中で優秀賞3位と4位で合格

(2) 柔軟な教育課程の運用

各学年段階での週あたりの授業時数は、前項の教育課程表にあるように、1年次30単位時間、2年次と3年次は29単位時間である。（1単位時間50分）1年次の総合実習は時間外で実施するため、基本的には全学年とも週29単位時間となるが、実際には週30単位時間の授業を実施している。農業系の実習が多いことと、学校設定科目「そば」も時期に応じて週実施時間を増減させなければならないことから、固定時間割ではなく週毎の時間割を作成し実施時間数の標準化を図っている。

(3) 教育課程編成および実施上の課題

- ①学校設定科目「そば」の増単と総合化
- ②多様化する生徒に対応するリメディアル教育の組込と学力上位生徒への対応の充実
- ③生徒の進路実現を支えるキャリア教育の充実

5 学校経営上の今後の課題

- (1)本校の教育内容を理解し、就学意欲が高い生徒の確保と在校生徒の進路指導
- (2)町に活力を与えるような、生徒が生き生きとした学習活動の実践
- (3)生徒に誇りと自信を持たせる指導を行える教師集団の形成

中学までに「いじめ」や「不登校」の経験がある生徒、LD・ADHD等の特別支援が必要と認定された生徒の入学が徐々に増加してきている。受験倍率もほとんど無い中で、特別支援教育を踏まえつつ本校への就学意欲が高く、実習への学習能力を持ち、寮での生活が可能な生徒の確保は重要課題である。

上記のような入学生の増加により、寮指導を含め生活指導面に、多くの労力と時間が割かれる現実があり、ともすればそれらによって各教師の専門教科での指導意欲低下につながってしまう場面もある。教師個々人のコミットメントを引き出し、インセンティブを高めるような管理職側のリーダーシップを発揮することが求められる。

また、このような中で、学校の軸となる授業を構築することは特に重要であり、それを可能にする教育課程の編成と実施、さらに時宜を得た評価をもって改善して行くマネジメントサイクルを確立することも課題である。

6 まとめ

生徒には困難に立ち向かう力、やりきる力を身につけさせたい。日々の授業、農業教育、寮生活指導を通し自己肯定感・自己有用感を育む中で、地域の力・農業の力が「生徒の笑顔」を作り、さらにそれが地域の信頼に応える相乗的な営みとなって行く。

これらを具現化するために、教職員の協働意欲の高揚と資質・能力の向上を図り、地域とともに歩みながら生徒が自己実現を図っていくことが本校の目指す学校経営のあり方である。